

## 一宮市男女共同参画推進懇話会会議録（概要）

会 議 名	平成 25 年度第 2 回会議録
開 催 日 時	平成 25 年 11 月 6 日（水）14：00～16：00
開 催 場 所	一宮市役所木曾川庁舎 3 階第 1 会議室
出席委員氏名	岩田委員、岡西委員、佐々木委員、渋谷委員、瀧委員、野田委員、野村委員、日置委員、藤浦委員、松岡委員、松村委員、水谷委員、森(利)委員、森(律)委員 計 14 名
欠席委員氏名	岩間委員 計 1 名
出席した市職員	事務局 企画部長、企画部次長、企画政策課長、同副主監 1 名、同主査 2 名、同主任 1 名 計 7 名
会 議 事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民憲章唱和</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. あいさつ</li> <li>4. 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①正副会長の選出について</li> <li>②男女共同参画意識に関する調査結果報告（市民アンケート結果）について</li> </ol> </li> <li>5. 報告 「第 2 次一宮市男女共同参画計画～138 ハートフルプラン～」 中間見直しの概要</li> <li>6. その他</li> </ol>
<b>会 議 内 容</b>	
事務局（課長）	（資料の確認）
企画部次長	<b>市民憲章唱和</b> （市民憲章唱和）
事務局（課長）	（ICPO 通信紹介）
事務局（課長）	<b>委嘱状交付</b> 次第 2 に移りまして、一宮市男女共同参画推進懇話会委員をお願いする皆様に、委嘱状をお渡しさせていただきます。企画部長の伊藤がお席まで伺いますので、そのままお待ちください。
事務局（部長）	（委嘱状交付）
事務局（部長）	<b>あいさつ</b>

事務局（課長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様には、これまでお願いをしている方以外に、今回新しく委員になられた方が2人みえますので、ご紹介をさせていただきます。</p> <p>お手元の資料1、懇話会委員名簿をご覧いただきたいと思います。</p> <p>新しく委員になられた方は、</p> <p>ナンバー10 一宮保健所健康支援課長の 藤浦なつ子 様、</p> <p>ナンバー12 公募委員の 松村正三 様</p> <p>でございます。よろしく願いいたします。</p> <p><b>正副会長の選出について</b></p>
事務局（課長）	<p>続きまして、次第4に移り、議題に入らせていただきます。</p> <p>議題① 正副会長の選出についてですが、お手元に配布した資料の懇話会設置要綱をご覧いただきたいと思います。</p> <p>第4条第1項において、「懇話会には、会長及び副会長を置き、その選出は委員の互選による。」となっております。いかがいたしましょうか。</p> <p>なお、従前より、会長には佐々木委員、副会長には水谷委員にお願いしておりますことを報告させていただきます。</p>
岡西委員	<p>前回に引き続き、会長を佐々木委員、副会長を水谷委員にお願いしてはどうでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜拍手＞</p>
事務局（課長）	<p>では、会長には佐々木委員、副会長には水谷委員にお願いすることでみなさまの承諾をいただきましたので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、佐々木会長、水谷副会長には、前の席に移動をしていただき、一言ずつごあいさつをお願いしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">＜会長あいさつ、副会長あいさつ＞</p>
事務局（課長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題4②に入らせていただきます。</p> <p>ここからの進行は、佐々木会長にお願いをいたします。</p>
会長	<p>それでは、議題に入らせていただきます。</p> <p>お手元の次第にございますように、議題4②男女共同参画意識に関する調査結果報告についてですが、このアンケートは懇話会において内容を審議し、委員のみなさまの意見も取り入れられたものとなって</p>

事務局	<p>おります。結果がまとまったようですので、事務局から報告願います。</p> <p style="text-align: center;">＜資料に基づき説明 項目１＞</p>
会長	<p>事務局から男女共同参画意識に関する調査結果について説明がありました。事前に報告書は送付させていただいておりますので、ひととおり、お目通しされているかと思えます。</p> <p>前回２１年の調査は回収率が５４．８％あったものが、今回は残念ながら３５．０％と低い結果でした。５０％くらいの回収率は欲しかったと思えます。回答者の属性について、全体の動きは前回と大きな差はないと思えます。性別では、男性の方でアンケートにお答えにならなかった方が増えていることを頭に入れておいたほうが良いと思えます。年齢では、傾向として２０歳代の回答が非常に少なく、若い人が無関心であると思われれます。職業でみてみますと、時代の流れで自営業、家族従事者が減っているとうかがえます。このような点も頭に置いて、お考えいただきたいと思えます。</p> <p>調査結果についてのご意見、あるいは調査結果をふまえ、来年の中間見直しに対する重点箇所等、ご意見をいただきたいと思えます。</p> <p>全体の項目が５つにわかれておりますので、項目ごとにご審議いただきたいと思えます。</p>
松村委員	<p>このアンケートの対象者数は、３０００人と限定して出されたのでしょうか。</p>
事務局（副主監）	<p>今回は３０００人の方に郵送しました。一般的に統計学上、２万人以上であれば２０００人を対象とすれば、集団全体の意見を反映しているといわれています。今回の人数で問題ないと思えます。</p>
松村委員	<p>提案ですが、アンケート業務の経験から、たくさんのサンプル数がないと信憑性が低く、問題解決ができないと思えます。特に、若い人の回答数が少ないことから、関心がないと思えます。もっと親しみやすく、若い人向きにファンクラブ的なものを立ち上げて、ニーズを取り入れていくのはどうでしょうか。</p>
日置委員	<p>学校教育の場が一番平等であるという結果が出ていますが、２０歳代の女性は６１．４％、２０歳代の男性にいたると８３．９％が平等だと考えている結果に驚きました。若い人たちは学校教育を終えるまでは平等という考えが強いです。就職の段階からそうではなかったと</p>

<p>洪谷委員</p>	<p>気づき始めるのですが…。</p> <p>20歳代30歳代の人たちがこれからの一宮市を背負っていくわけですから、彼らが何を一宮市に望んでいるのか、何を考えているのか、彼らの男女平等感はどうなっているのか、若者向けに取り組んでいただきたいです。愛知県の委員をしているとき、成人式の会場で意識調査を行ったことがあります。これからは担う若者の意識をクローズアップするような、やわらかな設問で調査できればいいと思いました。</p> <p>20歳代の方は、学校以外の場で、ボールペンをもって何かをすること自体がないのではないかと思います。アンケートが届いたとしても、回答作業が20歳代にとっては遠い世界のことと思う可能性があります。今後、若い人たちに意見をだしてもらうためには、アンケートの手法の中で、インターネットの活用、成人式で配布など、若者に歩み寄って仕組みを考えることが必要ではないかと思います。</p> <p>名古屋市男女平等参画推進センターで事業をしていますが、つながれっとクラブというファンクラブを作っています。ファンクラブ的な要素は重要ですが、ファンクラブを通してどのように、男女共同参画を伝えていくかが問題だと思います。</p>
<p>松村委員</p>	<p>20歳、30歳代の意見やニーズを取り上げるのは重要になってくると思います。少子高齢化が進む中で、彼らが日本の社会を担っていく観点から考えれば、こういう問題になることをわたしたちが解決することによって住みよいまちにつながっていくと思います。</p>
<p>岡西委員</p>	<p>アンケートの回答数が少なかったのは残念だと思います。</p> <p>このアンケート結果の中から市民の声を取り上げ、男女共同参画の推進を進めなければならないと思います。私達委員こそが、行政に向かって、どんどん意見を出せる懇話会になっていくことが必要だと思います。男女共同参画は、人が幸せに生きるための権利と思っています。市民の方からいろいろな意見をいただきながら、私達は進めていかなければいけないと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">＜資料に基づき説明 項目2＞</p>
<p>松岡委員</p>	<p>家庭における家事分担についてですが、性別だけでなく、専業主婦なのか勤めているのか、就労状況別による分析は行っていませんか。</p>

事務局（副主監）	<p>申し訳ありませんが、その分析は行っておりません。</p>
松岡委員	<p>男女共同ということに関して、20歳代のアンケートの回答が減っているという意見がありましたが、私はそうは思っておりません。私は意見を言いたいときはアンケートに答えますが、そうでないときは返しません。この結果をみておきますと、20歳代は男女の数値が非常に共通していると思います。私は浸透していつているのではないかと感じました。</p>
野村委員	<p>最近、男性も定年後は家庭に入り、家事を手伝ってくれます。まわりでも、家庭の中で、上手に家事分担をされている方がいらっしゃいます。男性も定年を迎えると家庭に入る年代と気づかれるようです。</p>
松村委員	<p>コミュニケーションが大切なので、役割分担を決めるというより共同作業のほうがいいと思います。</p>
渋谷委員	<p>52ページの介護経験の中での悩みごとをみると、介護をする方はストレスや精神的負担が大きいと回答する方が大変多いです。団塊世代の方が高齢化していくと介護の問題は非常に大きくなると思います。一宮市ではないですが、企業の中で介護を抱える管理職の男性が多いそうです。自分自身の両親を妻が介護をするケースが少ないようで、管理職の男性が介護休暇を取る傾向になってきているそうです。企業の中での問題もありますし、企業の中だけでなく、地域でのサポートの仕組みも男女共同参画の視点で、女性だけが知っているではなく、男性も自身の高齢期の問題を考えることが必要になってくるのではないかと思います。</p>
日置委員	<p>いわゆる「男性は仕事、女性は家庭」という考え方は、是正はされてきましたが、残念ながら全国調査では逆戻りしています。愛知県はどちらかというと保守的なところなので賛成が多いです。性別固定役割をしていかないという点では、男性も女性も、夫も妻も、自分からできるところからやっていけばいい、あるいはできる状態であればいいのですが、現実問題は簡単ではないです。男性の30歳代～50歳代の大半はあまり家庭を顧みる時間、ゆとりがなく、非常に厳しい働き方をしています。要するに時間的な余裕がない状況です。アンケートの結果では、夫婦や家族間でのコミュニケーションを図るという回答が一番多いですが、そういう個人や家族のレベルに問題を持っていくと、なかなか社会全体はよくなっていかないところがあります。子育ても介護も個人や家庭に押し付けるのではなく、社会全体でみてい</p>

<p>松村委員</p>	<p>くという方向へ政府や自治体もっていかないと個人のレベルに押し付けては難しいと思います。</p> <p>男性は仕事を重視している中で、育児休業など休暇を取りたくても取れない状況が問題だと思います。企業に対し罰則規定を設けないと前には進まないと思います。</p>
<p>日置委員</p>	<p>日本は法律や制度はある程度整っていると思います。制度や法律を利用できる、遵守させるかどうかだと思います。</p> <p>個人が権利を要求・主張するのは難しいので、企業への努力義務やペナルティをつけるなどのシステムを少しずつ我々が話し合いながら作っていくといいのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">＜資料に基づき説明 項目3＞</p>
<p>岡西委員</p>	<p>女性がいったんやめて再就職するのは難しいです。育児休暇を取得して復帰しても、自分のポジションがなくなっていたという声をききます。また、子ども（乳児）を預けられないので復帰できなかったという声もききました。保育所の整備であるとか、社会でなんとかしてあげないといけないと思います。問題が解決できれば、社会に復帰していく女性は増えていくと思います。社会の環境整備が大切な問題だと思います。</p>
<p>瀧委員</p>	<p>子どもが病気になってしまったことで仕事をやめました。残業をしなくてもよかったり、時短勤務ができれば、仕事を続けられたと思います。懇話会に参加したことで男女を平等にと思いました。大学をでるまで自分たちが平等ではないと思ったことはなく、社会に出てはじめて気づきました。若い方に不平等感はないと思います。</p> <p>正社員で責任ある仕事するうえで、子どものことを言い訳にはできないと思って、仕事をやめることになりました。育児休業だけでなく労働時間短縮などがとりやすい環境になるように考えていきたいと思っています。</p>
<p>藤浦委員</p>	<p>保育園の整備ができていないから働けないという声をよく聞き、保育園の整備をする行政の動きもありますが、66ページにありますように、若い20歳代の女性の統計をみると、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」と答えている方</p>

	<p>は、働きたくても働けない状況ではなく、こういう意識を持っている20歳代の女性が多く、「ずっと職業を持ちつづけるほうがよい」より、こういう生活スタイルを望んでいるということなのではないでしょうか。若い女性が自分で育児をしたいと思っているのか、この結果からはどんなふうを考えているかがわからないと思いました。</p> <p>30歳代になると、「ずっと職業をもち続けるほうがよい」が多くなりますが、仕事をやむなくやめた人がもち続けたかったと答えているの回答があるかもしれないです。この結果から読み取れることが複雑だと思いました。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">＜資料に基づき説明 項目4＞</p>
松村委員	<p>DVのような行き過ぎた行為をしないよう、小さいうちから親が子どもに教育していくのが大切だと思います。</p>
渋谷委員	<p>70ページのところで、「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆるDVと呼ぶ」や「DVには殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれる」の項目は、前回調査より伸びているので、前回調査以降のいろいろな取り組みが進んできたのだと考えました。</p> <p>「職場におけるセクハラ防止のために、法律で事業主に雇用管理上必要な配慮をすることが義務付けられている」というところは、男性がたたくさん知っている結果になっています。おそらく、職場でセクハラ研修などを受けて、女性より男性のほうが職場での研修が進んでいるのではないかと読み取れました。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">＜資料に基づき説明 項目5＞</p>
森（律）委員	<p>このアンケートを送る際には、調査票以外に男女共同参画に関する一宮市の取り組みなどの資料を同封していますか。</p>
事務局（副主監）	<p>アンケート用紙のみを送らせていただきました。一宮市の取り組み状況等をお知らせする文書等はお送りしておりません。</p>
森（律）委員	<p>76ページの男女共同参画社会に関する用語の認知度に関して、「言</p>

<p>会長</p>	<p>葉について初めて知った」「わからない」などの自由意見もあったので、用語の解説や一宮市の活動内容をアンケートを送る際にお知らせしてもいいのではないかと思います。</p> <p>82ページからは自由意見が154件出ておりますので、ひとつの参考にしていただけたらと思います。ご意見等ありましたら事務局のほうへお申し出ください。</p> <p>これで議題については、終わらせていただきます。</p> <p>続いて、事務局より報告をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>＜第2次一宮市男女共同参画計画中間見直しについて＞</p>
<p>会長</p>	<p>定例の懇話会のほかに、見直し案を作成するために4回ほどお集まりいただきまして、ご意見をたまわりたいということですが、この件についてなにかご質問等ありましたら、発言いただきたいと思います。</p> <p>そのほか、事務局より何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>＜パープル・ライトアップについて＞</p>
<p>会長</p>	<p>予定の時間も近づいてまいりました。長い時間にわたり、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。事務局へお返しします。</p>
<p>事務局（課長）</p>	<p>本日は熱心にご審議いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>本日いただきましたご意見につきましては、今回の意識調査の結果と毎年実施しております計画の進捗状況とを総合的に勘案しながら、来年度の中間見直しに向けて、事務局で素案を作成いたします。来年7月に委員の皆様へ素案をお示しし、素案に対しご意見をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p><u>会議終了（16：00）</u></p>